

引用例3

【添付書類】



378

廣 川

5

薬用植物大事典

— 監 修 —

刈 米 達 夫 木 村 康 一

— 編 集 —

木 島 正 夫 柴 田 承 二

下 村 孟 東 丈 夫



東京 廣川書店 発行

174 ジャバシトロネラソウ・シャリンバイ・シュウカイドウ・ジュウヤク・シウガ

るが現在は生産されていない。

中国産の寒門冬はナガバジャノヒゲ *O. ohwi* Okuyama (*O. longifolius* Ohwi) の紡錘根で、わが国にも九州に自生する。日本では一般に近縁のヤブラン *Liriope muscari* Bailey (*L. muscari* Bailey var. *communis* Nakai, *L. graminifolia* Baker) の塊根を大葉寒門冬とし、中国産寒門冬のようにいうが、正しくはナガバジャノヒゲをあてるべきである。しかしヤブランの塊根を民間では催乳薬とし、また暑気あたりなどに用いる。

ジャバシトロネラソウ → シトロネラソウ (p.166), レモングラス (p.387)

シャリンバイ *Raphiolepis umbellata* Makino (バラ科 *Rosaceae*)

本州中国地方、九州に自生し、各地に栽植される常緑低木で、枝は太く、葉は革質、だ円形で光沢があり、まばらに鈍き歯があるかまたはほとんど全縁、鈍頭で短柄をもつ。花序は直立頂生し夏に白色の5弁花を開き、石果は球形である。樹皮および材にはタンニン4~5%を含み、樹皮は大島柚のかっ色染料となる。

マルバシャリンバイ *Raphiolepis umbellata* Makino var. *integerrima* Rehd. は日本南部に自生し、枝低く葉は広だ円形で全縁円頭で、用途はシャリンバイに同じである。

シュウカイドウ *Begonia evansiana* Andr. (シュウカイドウ科 *Begoniaceae*)

中国原産の多年生草本で、日本各地に栽培される。草高40~60cm、葉は耳形、先端とがり、基部は心形で長柄があり互生する。花は雌雄同株で9月頃有柄の淡紅色花を集散花序をなしてえき出する。果実には3翼があり、そのうちの1つが特に大きい。開花期の全草にはシュウ酸約1%を含み、民間では全草を健胃薬とする。小児が好んで食べることがあるが、新鮮葉にはシュウ酸0.2~0.3gが含まれるので多食すると中毒する。また根にはサポニンよう物質 *begonin* を含む。

1) 石野：軍医団雑誌210, 1826 (1930)

ジュウヤク → ドクダミ (p.241)

シウガ *Zingiber officinale* Roscoe (シウガ科 *Zingiberaceae*) ginger
インド原産といわれ、広く世界各国に栽培されている多年草である。根茎は黄白色で多肉で、その形は屈指を並べた様子で多く分枝し、そこから芽を出し茎ができる。茎は直立並列し、高さ60~100cmである。葉は茎上に2列に互生し、有柄で、長だ円形で先はとがり、下部は長い葉鞘(鞘)で茎を包んでいる。わが国では普通花は咲かないが暖地では穂状花序を頂生し、夏日黄緑色の小花を開く。根茎は乾燥したものをシウキウガ *Zingiberis Rhizoma* 生薑といい精油を0.25~3.0%を含み、その主成分は *zingiberol* $C_{11}H_{20}O$ (β -eudesmol の trans と cis 体の混合物) 1~3%, ジンギベレン $C_{11}H_{20}$, *phellandrene*, *camphene*, *citral*, *linalool*, *methylheptenone*, *nonylaldehyde*, *d-borneol* などからなり、辛味成分は *zingerone* $C_{11}H_{14}O_3$, *shogaol* $C_{11}H_{14}O_3$ である。芳香性健胃薬または矯味薬とし、1日数回0.2~1.0gを、また生薑シロップを製して用い食欲促進に効がある。

3

ジョウザンアジサイ・ジュズダマ・シュロ・シュロソウ 175

といわれる。なお根茎の特に大型のものはオオショウガ *Zingiber officinale* Roscoe var. *macrorrhizonum* Makino とし、りん片が紅色のものをベニショウガ *Zingiber officinale* Roscoe var. *rubens* Makino としている。

ジョウザンアジサイ *Dichroa febrifuga* Loureiro

(ユキノシタ科 *Saxifragaceae*)

中国中南部(福建、四川、湖北、雲南、広東など各省)インド、東南アジアに自生または栽培する高さ1~2mの落葉低木である。葉は有柄対生し、だ円~広ひ針形、長さ5~17cm、巾2~6cm、辺縁にきこ歯があり、表面深緑色裏面淡緑色、若葉は黄色の短毛がある。6~7月散形花序を各枝に頂生または枝端部葉えきにつけ、青色の正花と装飾花を開く。3~4年生のものを8月か2月に採根し陽乾したものを常山(ジョウザン) *Dichroae Radix* といい、古く神農本草経にその名が見られる生薬である。成分は根および葉にアルカロイドを含み、febrifugine $C_{15}H_{15}O_5N_3$ 、isofebrifugine が明らかとなっているほか dichrodine $C_{15}H_{15}O_5N_3$ 、4-quinazolone $C_8H_6ON_2$ が知られている。常山は中国で解熱薬、催吐薬として比較的によく用いられているが日本での利用は少ない。なお本種の幼木苗または葉をつけた枝梢は蜀漆(シクシツ)と称され同様の目的で用いられるという。また常山と同様の目的で用いられる常山と称される植物は数科数種あるが、日本の常山にコクサギをあてるのは誤りである。

ジュズダマ → ハトムギ (p.287)

シュロ、ワジュロ *Trachycarpus fortunei* Wendl. (*T. excelsus* Wendl.)

(ヤシ科 *Palmae*)

南九州の原産で各地に栽培される常緑高木、幹は単一、高さ3~10mで暗かっ色の繊維でおおわれる。葉は茎頂にそう生し、円形で扇状に深裂、裂片は線形、葉柄は長い。若い葉をさらしたものを下駄、ぞうり表、帽子、敷物などの製造に用い、しょう(鞘)部(シュロ皮)はなわ、靴ふき、敷物、刷毛、ほうきなどの原料になり、また材とともに建築材料にもなる。なおトクシュロ *T. wagnerianus* Becc. は中国原産でわが国各地に栽植し、シュロによく似るが、葉は剛硬で小形、色も濃く、短柄で、なお茎は太く花穂も花が多い、外観が美しいので観賞用とする。

シュロソウ *Veratrum japonicum* Loesener fil. (ユリ科 *Liliaceae*)

各地ことに高原に群生する多年草で茎は粗毛を密布し、根出葉はおおむね長だ円状ひ針形で両端長くとがり、茎生葉はさらに狭く線状ひ針形で鋭先端である。夏、茎頂に円すい花序をなして径1cmばかりの黒紫色の小花を開く。和名シュロソウは古い葉の脈が黒かっ色の繊維となって直立した根茎を包み、シュロの毛のように見えるのによる。この根茎を

4

マンナノキ・マンネンロウ・ミカン・ミクリ・ミザクラ・ミシマサイコ 345

マンナノキ *Fraxinus ornus* L. (モクセイ科 *Oleaceae*) flowering ash
 ヨーロッパ南部、小アジアの山地に自生する高木である。幹は灰色、小葉は5~7葉か
 らなる奇数羽状複葉をもつ。幹に切傷をつけてにじみ出る樹液の固まったものをマンナ
 manna と称する。マンナはマンニットを主成分とし manninotriose, stachyose を含む。
 小児緩下剤に用いられたことがある。今はマンニット製造原料にされる。

マンネンロウ *Rosmarinus officinalis* L.

(シソ科 *Labiatae*) rosemary, dew of the sea

地中海沿岸に自生し、とくにダルマチア地方に多い、ヨーロッパ中部ではよく栽培する。
 常緑低木で高さ1~2mに達する。葉は対生、線形で鈍頭、全縁、長さ2~3.5cm、厚さ
 2~4mm、上面緑色で光滑があり、下面は灰白色で毛を密生し、縁は強く内側へまき込
 む。花は葉のわきについて総状花序をなし、花冠はしん形で灰色がかかった紺色。雄ずいの
 うち2本は外へ長くとび出している。全株に一種の芳香がある。葉をロスマリン葉、*Ros-*
marinus と称し、camphene, cineol, pinene などからなる精油を含み、精油はロスマリ
 ン油といい、皮膚刺激、疥癬治療などに用いたが、現在では香料として用いる。

ミカン → ウンシュウミカン (p.48)

ミクリ *Sparganium stoloniferum* Hamilt. (ミクリ科 *Sparganiaceae*)

日本およびアジア東部に分布する沼沢性の多年草で、葉はそう生し、線形で細長く幅
 7~12mm、先端細まり背面に1りょうがあり下部は3りょうを呈する。茎は直立し、高
 さ70~100cmで、6~8月頃茎頂に1~3個の雌性頭花およびその上方にやや多数の雌性
 頭花をつけ、小花が密集して球状を呈する。

その根茎は中国、特に東北地方で近縁種ヒメミクリ *S. stenophyllum* Maxim., エゾミ
 クリ *S. simplex* Huds., *S. minimum* Hill. の根茎とともに荆三稜(ケイサンリ。ウ)と
 称し、漢方で通経、催乳薬とする。また中国浙江省では *S. longifolium* Turcz. の根茎を
 も荆三稜と称している。なお荆三稜は元来、カヤツリグサ科 *Cyperaceae* のウキヤガラ
Scirpus yagara Ohwi の根茎である。ミクリは民間で茎をもみつぶして傷につけ、また
 乾燥したものを煎用すれば増血剤になるといわれる。(→ウキヤガラ)

ミザクラ → シナミザクラ (p.168)

ミシマサイコ *Bupleurum falcatum* L. (*B. scorzoneraefolium* Willd. var.
stenophyllum Nakai) (セリ科 *Umbelliferae*)

中部以西の山野にはえる多年生草本で、高さ0.4~1m、根は黄かっ色で太く長い。茎は
 直立し細長くて堅く、縦条があり葉とともに毛はない。茎立葉は線形あるいは広線形で互
 生し、多少かま状に湾曲する。葉質はやや堅く全縁で上下は細くせばまり、数本の葉脈が
 縦に走る。根生葉には往々長い葉柄がある。夏秋の頃こずえに多数の小さい複散形花序を
 つけ、小形の黄色5弁花を開き、大花柄にも小花柄にも包葉がある。花弁は内側に曲がり、

廣 川
薬用植物大事典

定 価 ￥ 4,000.-

編 著 者	木 島 正 夫 柴 田 承 二 下 村 孟 東 丈 夫	昭 和 38 年 11 月 3 日 初 版 発 行 昭 和 41 年 2 月 20 日 3 刷 発 行
発 行 者	廣 川 源 治 東京都文京区本郷3丁目27番14号	昭 和 42 年 9 月 1 日 修 正 版 1 刷 発 行
印 刷 所	大日本法令印刷株式会社 長野市中御所町2の30	昭 和 58 年 2 月 25 日 修 正 刷 14 刷 発 行

発 行 所 株 式 会 社 廣 川 書 店

東京都（本郷局区内）文京区本郷3丁目27番14号

電 話 東 京 8 1 5 — 3 6 5 1（代表）

振 替 東 京 8 2 6 9 4 番

自然科学書協会員・高等教科書協会員

Hirokawa Publishing Co.

27-14, Hongō-3, Bunkyo-ku, Tokyo

(full translation)

Mailing Serial No. 095908 1/E
Mailing Date: September 30, 2003

NOTICE

Dated: September 24, 2003

Commissioner, Patent Office

To: Mitsuyuki ARUGA, and 6 others, Esq.
Agents of Patent Applicant

Re: Patent Application No. 2001-518020

This is to notify that against the captioned application, information was presented on August 7, 2003 by means of a Submission of Publications, etc. to the effect that the invention claimed in the application shall not be patented.

The presented information is available for inspection upon filing a request for inspection of documents relating to the application.

The first senior clerk of the Designated Office of the International application section is responsible for this Notice. Inquiries, if any, may be made by telephone to 03-3581-1101 (Ex. 2644).

(full translation)

[Patent] 2001-518020

[Received] August 11, 2003

[Document Name] Submission of Publication

[Submission Date] August 7, 2003

[To] Honorable Commissioner, Patent Office

[Identification of Case]

[Application No.] Patent Application 2001-518020

[Submitting Person]

[Address] Omitted

[Name] Omitted

[Submitted Publications]

(1) Japanese Laid-open Patent Application No. 7-206652 gazette (hereinafter, referred to as Reference 1)

(2) Japanese Laid-open Patent Application No. 8-268859 gazette (hereinafter, referred to as Reference 2)

(3) "Comprehensive Dictionary of Medicinal Plants", Hirokawa shoten, Published on November 3, 1963 (hereinafter, referred to as Reference 3)

[Reasons for Submission]

(1) The present invention cannot be patented by the provision of Patent Law Section 29(2).

(2) Reasons

Amended claim 1 of the present application is as follows:
(Amended) A cosmetic containing 0.01-60 wt% of at least one selected from corneum-containing lipids and analogs thereof and 0.05-20 wt% of terpene component(s) selected from α -pinene, β -pinene, camphene, limonene, β -caryophyllene, α -terpineol, borneol, nopol, isobornylcyclohexanol, santalol, cedrol, guaiol, vetivenol, and patchouli alcohol.

In paragraph [0036] of Reference 1, there is described a cosmetic containing a ceramide and a rosemary extract (2.0wt%). In addition, there is described in Table 5 of Reference 2, a cosmetic containing a pseudo-ceramide and a ginger extract. Reference 3 discloses on page 174 that ginger contains camphene and on page 345 that rosemary contains camphene and pinene. Then, by combining the inventions disclosed in References 1-3, it will

NOTICE

be easy to conceive the present invention, "A cosmetic containing 0.01-60 wt% of at least one selected from corneum-containing lipid and analogs thereof and 0.05-20 wt% of terpene component(s) selected from α -pinene, β -pinene, camphene, lomonene, β -caryophyllene, α -terpineol, borneol, nopol, isobornylcyclohexanol, santalol, cedrol, guaial, vetivenol, and patchouli alcohol". Accordingly, the present invention will be readily conceived by those skilled in the art on the basis of the inventions described in References 1-3 which were published before the filing date of this application, and thus cannot be patented by the provision of Patent Law Section 29(2).

発送番号 095908 1/E
発送日 平成15年 9月30日

通知書

平成15年 9月24日

特許庁長官

特許出願人代理人 有賀 三幸（外 6名） 様

特願2001-518020



上記出願につき、平成15年 8月 7日当該出願にかかる発明が特許をすることができない旨の刊行物等提出書による情報の提供がなされたのでお知らせします。

提供された情報は、当該出願の書類閲覧を請求すれば閲覧することができます。

この通知に関するお問い合わせがございましたら、下記までご連絡ください。

国際出願課指定官庁

指定官庁1上席

電話 03(3581)1101 内線2644

ファクシミリ 03(3501)0659

【書類名】 刊行物等提出書
【提出日】 平成15年 8月 7日
【あて先】 特許庁長官 殿
【事件の表示】

【出願番号】 特願2001-518020

【提出者】

【住所又は居所】 省略

【氏名又は名称】 省略

【提出する刊行物等】 (1) 特開平7-206652号公報 (以下、引用例1という)
(2) 特開平8-268859号公報 (以下、引用例2という)
(3) 薬用植物大事典 廣川書店 昭和38年11月3日初版発行 (以下、引用例3という)

【提出の理由】 (1) 本願発明は特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。(2) 理由 本願発明の特許請求の範囲、補正後の請求項1は次のとおりである。

【提出の理由】

【請求項1】

(補正後) 角質層含有脂質及びその類似物質から選ばれる1種以上0.01~60重量%と、 α -ピネン、 β -ピネン、カンフェン、リモネン、 β -カリオフィレン、 α -テルピネオール、ボルネオール、ノボル、イソボルニルシクロヘキサノール、サンタロール、セドロール、グアイオール、ベチベロール、及びパチュリアルコールよりなる群から選ばれるテルペン系成分0.05~20重量%を含有する化粧料。ところで、引用例1の段落には、セラミドと、ローズマリー抽出物(2.0重量%)を含有する化粧料が記載されている。また、引用例2の

【0036】 には、擬セラミドと、ショウキョウ抽出物を含有する化粧料が記載されている。そして、引用例3の174ページにショウキョウにカンフェンが含まれ、345ページにローズマリーにカンフェン、ピネンが含まれていることが記載されている。ということは、とすると、引用例1乃至3に記載された発明を組み合わせれば、本願発明の「角質層含有脂質及びその類似物質から選ばれる1種以上0.01~60重量%と、 α -ピネン、 β -ピネン、カンフェン、リモネン、 β -カリオフィレン、 α -テルピネオール、ボルネオール、ノボル、イソボルニルシクロヘキサノール、サンタロール、セドロール、グアイオール、ベチベロール、及びパチュリアルコールよりなる群から選ばれるテルペン系成分0.05~20重量%を含有する化粧料。」は、容易に想到できるものである。したがって、本願発明は、その特許出願前に頒布された刊行物である引例1乃至3に記載された発明に基づいて、その発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が、容易に想到することができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

【表5】